

活動概要(2018年10月)

① 第2サイクル:普及ステップ6(Extension Activities for Farming Improvement)

1) Al-Izab Farmer Extension Group(カルキリヤ県・男性野菜農家グループ)

■ 農産加工業者とのマッチング(2018/10/2)

農産物販売プロモーション研修で農家グループが策定したアクションプランを支援するため、農家グループはヘブロン県にある果物・野菜の包装・販売業者 Shahed Grape Company 社およびヘブロン卸売市場を訪問した。Shahed Grape Company 社とは直接取引の商談も行われ、後日、農家グループ側から回答することとなった。本研修では、カルキリヤ県とヘブロン県農業局の職員が県を跨いで連携を取りながら活動を実施した。農作物はパレスチナ全域に流通しているため、これまでパレスチナ政府がほとんど行ってこなかった複数の農業局が広域的に連携をした普及活動が必要であると考えられ、プロジェクトでも積極的に促進していく方針である。



2) Maithalon and Sanor Farmer Extension Group(ジェニン県・穀物農家グループ)

■ フリーケ栽培技術研修(2018/10/24)

農家グループのニーズに基づき、フリーケ(小麦を未熟なうちに火で炙って強制的に乾燥させる穀物)の品質向上のための技術研修を実施した。研修では、自然条件、品種、圃場準備、播種、施肥、収穫の判定、収穫物の燃焼乾燥、調整等、一連の栽培工程について、普及員が研修教材を活用しながら説明を行った。収穫期間は短く、収穫したら直ぐに乾燥させる必要があるため、短期間で労働力を集中的に導入することがポイントである。また、本プロジェクトとは別に、本農家グループはパレスチナ現地のNGO から今期作のフリーケ種子と肥料の提供を受けることになっており、結果的に他ドナーとの効果的な連携の事例となる可能性がある。



② 市場志向型農業に係る本邦研修

1) 本邦研修参加者のための渡航前オリエンテーション(2018/10/10)

翌週から渡航する本邦研修参加者のためのオリエンテーションを行い、本邦研修の行程と視察のポイントについて説明を行った。また、JICA パレスチナ事務所職員から渡航手続き及びビザ関連の注意点を説明してもらった。過去に本邦研修に参加した政府職員にも同席してもらい、質問に答えてもらった。



2) 本邦研修(2018/10/16-27)

本邦研修では、市場ニーズ(品質等の基準)とそれに対応した農家による付加価値化の工夫、そしてそれを支援する農業普及・試験研究の事例を幅広く視察できるよう留意した。主な行程と視察内容は以下のとおりであった。



日本の農業普及及び職員体制に係る講義(JICA 筑波)
普及のポイント(普及の目的の明確化、農家の動機付け、農家に考えさせること、農家の問題解決能力の強化、普及活動の評価、等)、広域的な普及員ネットワークの事例、等



長野県の野菜・花卉の試験研究の視察(長野県塩尻市)
市場・農家ニーズを試験研究に効果的に反映させる仕組み、標高の違いを生かした農業とそれを支援するための試験研究の方針、市場ニーズに合わせた試験研究の事例、等



長野県の普及事業に係る講義(長野県庁)
長野県の農業の概要(パレスチナと類似した起伏の大きい地形と多様な気候)、県による普及事業の概要と事例、普及活動のモニタリング方法、長野県が抱える農業問題とその対策、等



イノシシ対策技術に係る講義(長野県庁)
パレスチナに適用可能なイノシシ被害への対策技術、イノシシの生態、イノシシ用くくりわなの実演、等



農産物直売所視察(長野県長野市)
「農家自身が店頭価格を自由に決める仕組み」を取り入れたことでの農家間の競争による作物の品質向上の事例、等



JA 集出荷施設の視察(長野県小諸市)
ブロッコリーの等級と価格の違い、集出荷のフロー、仕分けの方法、予冷による品質維持の方法、等



農家による付加価値活動の視察(ブロッコリー生産農家)(長野県小諸市)
JA の基準に合わせた出荷価格向上のための工夫(サイズと形を測るための道具の利用による付加価値化)、等



女性農家グループによる農産加工の視察(長野県長野市)
ビジネス理念(地域への貢献とビジネスの両立)、女性農家特有の問題と解決した経験、規格外野菜の再利用の利点、等



農家による付加価値活動の視察(ネギ生産農家)(千葉県山武市)
JA の基準に合わせたネギ生産技術、圃場の分割と定植時期の調整による労働力分散化、新規就農者支援の事例、等



観光牧場の視察(千葉県成田市)
観光牧場ビジネスの事例、酪農品を使った多様な加工品の事例、衛生面に配慮した畜舎の視察、等



都市近郊農業における普及活動に係る講義(千葉県東葛飾農業事務所)
都市近郊農業の特徴と課題、普及活動の事例、土壌分析の体制、等



道の駅農産物直売所の視察(千葉県柏市)
「顔の見える野菜」によるトレーサビリティと安心・安全による付加価値化、等



農家による付加価値活動の視察(トマト生産農家)(千葉県柏市)
サイズと品質でのグレーディングによる付加価値化、出荷先の多様化による収益安定化、省力化のための工夫、等



農家による付加価値活動の視察(ダイコン生産農家)(千葉県柏市)
JA による品質の基準、洗浄とサイズ・品質での仕分け・箱詰めによる付加価値化、輪作による生産の安定化、等



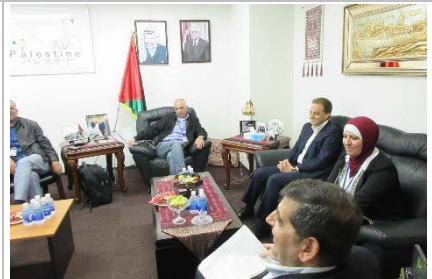
普及指導員の人材育成とネギの産地形成に係る講義(千葉県山武農業事務所)
普及員の人材育成方針・方法、調理方法の普及によるネギの新規市場開拓の事例、ネギ農家に対する普及事例、等



6次産業化に係る講義(JICA 筑波)
日本の農産加工の歴史と課題、等



JICA 本部表敬訪問
JICA によるパレスチナ支援概要紹介、等



駐日パレスチナ代表部表敬訪問
本邦研修の行程と進捗報告、等

最後のラップアップミーティングでは、ファイナディングを整理し、パレスチナで適用できる可能性がある技術や考え方をリストアップし、優先度をつけた。帰国後は、その結果を踏まえ、農業庁内にフィードバックするための報告会を開催し、研修員に発表をしてもらう予定である。



③ 第3サイクル:普及ステップ1(Willingness and Readiness Confirmation)

1) 農家グループの優先順位付けと県農業局に対するプレトレーニングガイダンス

プロジェクトでは農家グループ選定プロセスの透明化のため、①県農業局による対象農業サブセクターの選定、②地域の農家グループのロングリストの作成、③基準に基づく農家グループの優先順位付け、④選定された農家グループの参加意思確認の手順を採っている。本活動では、③基準に基づく農家グループの優先順位付けと④選定された農家グループの参加意思確認の方法の説明を行った。各県の農家グループのロングリストと選定結果は以下のとおりである。

■ サルフイト県農業局(2018/10/3)

農業の概況: 天水農業を主とする。オリーブ栽培が最も盛んで、アーモンド、イチジク、アンズ、ブドウ等の果樹も栽培されている。野菜は、在来種のスネークキュウリやオクラ等が栽培されている。養蜂、羊飼育、養鶏も行われており、農産加工として、養蜂クリーム、石鹸、羊チーズ、ラバニ、野菜加工も行われている。慣習的に女性が従事している農業活動も多い。



対象農業サブセクター: ①オリーブ、②食品加工(女性グループ)

農家グループロングリストと選定結果:

農家グループ	村落	主な作物・活動	選定結果
1. Farkha Cooperative for Organic Oil Production	Farkha	オリーブ共同搾油、有機オリーブ油の生産、Alreel社への販売、有機野菜生産等	
2. Deir Ballot Cooperative for Agricultural Processing	Deir Ballot	天水野菜栽培、食品加工(スネークキュウリのピクルス、タイム加工)、フェアトレード会社への販売	✓
3. AL Zaweya Women Association	Alzawieh	食品加工、学生食堂、家庭・事務所への食事サービス	
4. Masha Livestock Association	Masha	牧羊、乳製品加工	
5. Kufr Eddiek Women Association	Kufr Eddiek	食品加工、学生食堂、牧羊、乳製品加工	
6. Salfit Cooperative	Salfit	食品加工(タイム、乾燥アオイ(mallow)、トマトペースト加工)	
7. Hares Women Association	Hares	食品加工、ピクルス、学生食堂	
8. Agricultural Cooperative for Investment and Development	Salfit	オリーブ搾油、オリーブオイルパッケージ、果樹販売、ベーカリー	
9. Salfit Cooperative for olive pressing	Salfit	オリーブ搾油、オリーブオイル販売	
10. Bidya Cooperative for olive pressing	Bidya	オリーブ搾油、オリーブオイル販売	
11. Deir Istya Cooperative for Olive pressing	Deir Istya	オリーブ搾油、オリーブオイル販売	
12. Yasouf Cooperative for Olive pressing	Yasouf	オリーブ搾油	
13. Salfit Olive Farmers Extension Group	Salfit	オリーブ栽培	✓

■ エルサレム県農業局(2018/10/4)

農業の概況: 県東部はヨルダン渓谷と同様に乾燥地域であり、畜産が行われている。県西部は 500~600mm の年降水量があり、兼業農家による天水野菜・穀物栽培が行われている。また、専業農家によるブドウ、オリーブ、アーモンド等の果樹栽培も行われている。

対象農業サブセクター: ①畜産、②ブドウ

農家グループロングリストと選定結果:



農家グループ	村落	主な作物・活動	選定結果
1. Beit Dukko Development Society/Grape	Beit Dukko	ブドウ	✓
2. AL Nahda Rural Society	Biddo	オリーブ、アーモンド	
3. A group of AL Jdereh + Al Jeeb Farmers	AL Jdereh + Al Jeeb	天水作物	
4. Al Sawahreh Arab Cooperative Society for Livestock Development	Al Sawahreh	畜産	✓
5. Alshoroq Women Association	AL Izariya	食品加工	
6. Al Jeeb Women Association	AL Jeeb	農業活動	
7. Kalandia Women Association	Kalandia Camp	石鯰生産	
8. Al Jeeb Vegetable Farmers Group	AL Al Jeeb	野菜栽培(露地)	

■ ラマツラ県農業局(2018/10/7)

農業の概況:ラマツラの都市部近郊で、兼業農家による天水野菜・穀物栽培が行われている。降水量の少ない地域では畜産が盛んである。また、ブドウ、オリーブ、アーモンド等の果樹栽培も行われている。

対象農業サブセクター:①オリーブ、②畜産

農家グループロングリストと選定結果:



農家グループ	村落	主な作物・活動	選定結果
1. Bani Zaid Algharbeiieh Association	Beit Rema, Deir Ghassaneh, Kofor Ein	オリーブ	
2. Agricultural Rammon Association + Rammon Women Association	Rammon	牧羊、農村開発	
3. Karawa Bani Zaid Association + Women of Karawa Association	Karawa Bani Zaid	オリーブ、農村開発	
4. Rantees Girls Association	Rantees	農村開発	
5. Betlo Association	Betlo	オリーブ、養蜂	
6. Deir Al Sodan Association	Deir AL Sodan	農村開発、養蜂	
7. Beit Leqia Agricultural Association	Beit Leqia	オリーブ、野菜	
8. Agricultural Deir Debwan Association	Deir Debwan	牧羊	
9. Eastern Bani Zaid Association	Alnobani Farms, Arora	オリーブ	
10. Women of Betten Association	Betten	牧羊、農村開発	
11. Kharbatheh Musbah Group	Kharbatheh Musbah	オリーブ	✓
12. Safa Association	Safa	オリーブ、野菜	
13. Al Moghuyer Livestock Farmers Extension Group	Moghuyer	牧羊	✓

2) 対象農家グループに対する参加意思確認のための会議

選定された農家グループに対して、参加意思の確認を行うための会議を開催した。各県農業局普及員がファシリテーターとなり実施した。

- ・ EVAP 普及パッケージ概要・コンセプトの説明
- ・ 参加農家及びグループ要件の説明、参加意思及びグループ内連絡体制の確認
- ・ 参加農家の農業活動を含む基礎情報収集、課題・ニーズの確認
- ・ 営農に必要な情報活用に係るベースラインデータの収集

■ Innovative Cooperative Association for Food Processing(サルフィート県)(2018/10/22)

ステータス:政府に登録済みの組合(メンバー:男性7名、女性21名)

参加意思:参加者全員(男性1名、女性15名)がプロジェクトのコンセプトを理解し、活動への参加に同意した。

現時点で農家が認識している問題:i)生産物のマーケットが限定的、ii)イノシシ被害、iii)野鳥被害(播種期に在来種子を食べる)、iv)病虫害管理(ベト病、うどんこ病、さび菌類等)、v)モグラ被害、vi)不適切な移植時期、vii)雑草繁茂、viii)土壌肥沃度の低下、ix)貯蔵設備の不足



■ Beit Dokko Grape Farmer Extension Group(エルサレム県)(2018/10/16)

ステータス:EVAP2での普及活動のために新規に形成された農家グループ

参加意思:参加者全員(メンバー:男性 16 名)がプロジェクトのコンセプトを理解し、活動への参加に同意した。

現時点で農家が認識している問題:i)マーケットの問題(基本的にラマツラ卸売市場への販売と市場が限定的、収穫期の販売価格低下、イスラエル産ブドウとの競合)、ii)病虫害管理・予防(多大な被害を与えているべと病への対応)、iii)イノシシ被害、iv) 農業投入資機材の価格高騰、v) 早生・晩生種の欠如



■ Al Sawahreh Arab Cooperative Society for Livestock Development(エルサレム県)(2018/10/23)

ステータス:政府に登録済みの畜産組合(メンバー:男性 24 名、女性 7 名)

参加意思:参加者のうち、プロジェクトのコンセプトを理解し、現時点で活動への参加に同意したのは 14 名(男性 13 名、女性 1 名)のみであった。理由は、男女ともに家を空けることはできず、男性が家にいる土曜日が 15 時以降でないことと女性が活動に参加することは難しいためとのことであった。

現時点で農家が認識している問題:i)新生ヒツジの高い死亡率、ii)家畜飼料価格の高騰、iii)雌羊の流産、iv)外部寄生虫、v)不適切な給餌と病気(腸性毒血症等)、vi)予防接種プログラムに係る情報不足、vii)獣医サービスの価格高騰



■ Al Moghuyer Livestock Farmer Extension Group(ラマツラ県)(2018/10/29)

ステータス:EVAP2 での普及活動のために新規に形成された農家グループ

参加意思:参加者のうち、プロジェクトのコンセプトを理解し、活動への参加に同意したのは 17 名(男性 17 名)。羊、ヤギの飼育には地域の女性も関与している(特に、餌やり、搾乳、乳製品加工等)。

現時点で農家が認識している問題:i)新生羊の高い死亡率、ii)家畜飼料の価格高騰、iii)雌羊の流産、iv)放牧地の不足、v)水不足、vi)技術情報の不足、等



■ Kharbatheh Musbah Olive Farmer Extension Group(ラマツラ県)(2018/10/30)

ステータス:EVAP2 での普及活動のために新規に形成された農家グループ

参加意思:参加者全員(メンバー:男性 15 名)がプロジェクトのコンセプトを理解し、活動への参加に同意した。

現時点で農家が認識している問題:i)不十分な病虫害管理、ii)生産(特に収穫)に係るコスト高、iii)イノシシ被害、iv)施肥、剪定等の現場作業に係る技術・知見不足、v)農業局とのコミュニケーション不足、等



④ **Good Practice Farmer の事例発掘とデータベース化**

1) Good Practice Farmer の発掘と紹介シート作成に係るワークショップ(2018/10/8)

プロジェクトでは、自助努力により市場志向型農業を実践している農家(Good Practice Farmer)を探索し、その紹介シートを作成し、データベース化している。そして、普及活動の最初の段階で、対象農家に Good Practice Farmer の実例を見せることで、プロジェクトへの参加促進や市場志向型農業への行動変容のための動機付けを行っている。その活動を農業庁に段階的に移管し、プロジェクト終了後も持続的に継続してもらうようにするため、この活動を担当する農業庁普及・地域開発総局マスメディア部に技術移転を行っている。さらに、Good Practice Farmer の探索と紹介シートの作成は、県農業局のマスメディア部にも担当してもらい、広域的且つ持続的に活動が継続され、事例が蓄積されることを目指している。そのため、農業庁普及・地域開発総局マスメディア部主催で、県農業局のマスメディア部員を招聘して、Good Practice Farmer の発掘と紹介シート作成に係るワークショップを開催した。ワークショップでは、マスメディア部が



Good Practice Farmer を活用した農民間普及のコンセプトを説明し、Good Practice Farmer の紹介シート作成の演習を行った。また、ウェブ上で構築を進めている Good Practice Farmer データベースの紹介も行った。

2) Good Practice Farmer に対するヒアリング

第3サイクルの主要な農業であるブドウ栽培やオリーブ栽培の Good Practice Farmer の事例を探索し、紹介シートを作成するための現地調査を行った。

■ ブドウのべと病対策の事例(ベツレヘム県・エルサレム県)(2018/10/25, 28)

2018年の春は例年より降雨が長引いたことから、ブドウのべと病が蔓延している。農家の中には、べと病対策を行っている農家もいることから、事例を調査した。調査した農家は、イスラエルから防除技術を取り入れて実践しており、予防として剪定の徹底と殺菌剤の散布を適切なタイミングで実施していた。また、べと病の被害葉は摘除し、圃場外に持ち出し、焼却等の処分を行っている。べと病菌は隣接のブドウ園に伝搬するので、地域全体で農薬散布することが推奨される。また、べと病菌は葉で越冬し、翌年に再び発生を繰り返すのを防止するため、晩秋に葉が落ちる前に、農薬散布することも効果的である。



■ マッシュルーム栽培の事例(ラマツラ県)(2018/10/30)

イスラエルでのマッシュルーム農場で働いた経験を活かし、1998年からパレスチナで小規模に栽培を開始し、段階的に規模を拡大してきた。小規模であれば、比較的導入は容易と思われるが、普及にあたっては、栽培のポイントである、①外部と隔離された培養室が必要であること、②良質な菌と培地を準備すること、③温度と湿度、および照明をコントロールすること、④雑菌侵入を防止することを守る必要がある点、特に留意が必要な事例である。



■ ストーンフルーツ(核果類)栽培の事例(ベツレヘム県)(2018/10/31)

視察した農家は、営農方針として、①年間を通して恒常的に収入を得ること、②ローカルマーケットを見据えて果樹の種類および品種の多様化を図ることを意識した営農を行っている。以前はブドウ栽培を主として行ってきたが、営農の多様化を図るため、ストーンフルーツ(核果類:プラム、アンズ、モモ、アーモンド)を導入し、生計の安定化を図っている。



⑤ 普及活動のための予算・調達・経費精算方法に係る合同説明会(2018/10/11)

2018年7月に予算・調達・経費支払いの手続きを円滑化するための説明会を開催した。しかし、県農業局から提出される書類には依然として不備が多く、財務総局での承認手続きが滞っている場合が散見された。そのため、今回も財務総局と合同で、第1～3サイクルの9県の県農業局の普及部長と事務担当者を招聘して説明会を実施した。主な議事次第は以下のとおりであった。

- ・ 農業庁財務総局の監査担当者による書類不備の事例紹介
- ・ 多く見られる間違いに対する正しい記載方法に係る実演
- ・ 財務総局から県農業局に対する事前の書類チェック徹底の依頼
- ・ 県農業局における提出前のチェックリストおよび承認フローを記載した回覧用カバーレターの提案と活用方法の説明

説明会では、財務総局から、県農業局別の精算書類の承認状況を発表してもらったところ、全く不備がなく財務総局で円滑に書類が承認されている県農業局もあることがわかった。そのことから、農業庁内の手続き自体に問題があるのではなく、県農業局事務担当者による事前の書類チェックが不十分であることが問題だということが伺えた。そこで、財務総局からは、県農業局に対して、提出前の書類チェックの徹底を依頼するとともに、チェックリストとカバーレターを配布して活用してもらうよう依頼した。

